

平成29年度 第2回

認知症支援・介護予防・活躍推進に関する会議

2 議事（1）次期計画の考え方について

資料1

# 次期北九州市高齢者支援計画の基本的な考え方(案)

資料1

## 基本目標：人生90年時代へ備える ～高齢者も主役になる地域づくり～

目標	施策の方向性	分野別会議での検討事項	
		分野別会議	
<b>いきいきと生活し、生涯活躍できるまち</b>  「生きがい」や「社会参加」を、「地域貢献」へと展開させることで、より高次の欲求である「自己実現」を果たすことができ、日々の生活がより充実したものとなる。それぞれの能力・持ち味を生かした活躍を推進する。	<b>生きがい・社会参加・地域貢献の推進</b>  介護予防や社会とのつながりの観点から、「生きがいづくり」「社会参加」を支援するとともに、自分の役割・できることを意識した、主体的な行動を促し、「自分自身の生きがい」にとどまらない、「地域への貢献」への展開を推進する。	包括 認介活 認介活	高齢者の日常生活を地域で支える体制づくりの検討 健康づくり・介護予防・生活支援の充実へ向けた検討 高齢者の生きがい・社会参加など活躍の推進
	<b>主体的な健康づくり・介護予防の促進</b>  健康づくり・介護予防に関する正しい知識・手法の伝達・普及とともに、介護予防や生活機能の維持・向上は、日々の生活の中での取り組みが重要になってくることから、専門職の連携とともに、本人の主体的な行動を促進する。	包括 包括 認介活	地域包括支援センターを中心とした相談・支援体制の検討 高齢者の日常生活を地域で支える体制づくりの検討 健康づくり・介護予防・生活支援の充実へ向けた検討
<b>高齢者とその家族、地域がつながるまち</b>  高齢者であっても、一方的に見守られるのではなく、担う役割があることが重要。「見守る側」「見守られる側」に分かれるのではなく、多方面につながりを持ち、それぞれができる範囲で支え合うことを促進する。	<b>見守り合い・支え合いの仕組みづくり</b>  「見守る側」「見守られる側」に分かれるのではなく、多方面につながりを持ち、それぞれができる範囲で支え合う仕組みづくりを推進する。	包括	高齢者の日常生活を地域で支える体制づくりの検討
	<b>総合的な認知症対策の推進</b>  認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる仕組みづくりを推進する。	認介活	総合的な認知症対策の推進
	<b>高齢者を支える家族への支援</b>  高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくためには、介護保険などの公的なサービスとあわせて、家族など身近な人による支えが重要になることから、介護を担う家族が「息切れ」しないような支援に取り組む。	包括 包括	地域包括支援センターを中心とした相談・支援体制の検討 高齢者の日常生活を地域で支える体制づくりの検討
<b>住みたい場所で安心して暮らせるまち</b>  個人の選択による多様な住まい方が確保されるよう支援し、それぞれの状態に応じて、必要な生活支援、介護などのサービスを活用しながら、人生の最期まで安心して暮らせることを目指す。 長期的には、「コンパクトシティ」や「移住」なども見据え、「住み慣れた地域」に限らず、「住みたい場所」の選択肢が広がった場合にも対応できるような環境づくりを進める。	<b>身近な相談と地域支援体制の強化</b>  高齢者やその家族が、気軽に相談できるよう、多職種の連携を図りながら、隙間がない相談支援体制づくりを進める。	包括 医介	地域包括支援センターを中心とした相談・支援体制の検討 在宅医療・介護の連携推進
	<b>介護サービス等の充実</b>  支援や介護が必要な状態になっても安心して生活できるよう、介護保険サービスに加え、多様な主体による生活支援サービス等の充実を図る。	介護 介護 介護 介護	本市におけるサービス水準(介護サービスの見込み量) 介護保険料の水準 人材の定着に向けた職場環境改善の取り組み 介護ロボット等を活用した「先進的介護」の実現
	<b>権利擁護・虐待防止の充実・強化</b>  高齢者の権利や財産を守るとともに、虐待の早期発見から迅速かつ適切な対応・継続的な見守りまでの一貫した取組を推進する。	包括	高齢者の権利擁護の推進
	<b>安心して生活できる環境づくり</b>  多様なライフスタイルを実現できるような環境づくりを推進する。		